



レジャー白書2018

余暇市場 69兆9,310億円、前年比0.2%増

公益財団法人 日本生産性本部

公益財団法人 日本生産性本部 余暇創研は、『レジャー白書2018』を8月初旬に発行する。同白書は、余暇活動調査等をもとに、わが国における余暇の実態を需給双方の視点から総合的・時系列的に分析・記録している唯一のもので、1977年の創刊以来通算42号目になる。白書の主なポイントは次のとおりである。

日本人の余暇活動の現状 ～ゲームや音楽関連の参加人口が増加～〈資料 p. 2〉

「国内観光旅行（避暑、避寒、温泉など）」（5,240万人）が7年連続で参加人口の首位となった。全体として参加人口が減少傾向にある中で、「音楽鑑賞（配信、CD、レコード、テープ、FMなど）」「カラオケ」「テレビゲーム（家庭での）」など音楽やゲーム種目が順位を上げ、参加人口を増やした。

余暇関連産業・市場の動向 ～インバウンド効果に加え停滞分野が好転～〈資料 p. 3〉

2017年の余暇市場は69兆9,310億円で、前年比0.2%増と僅かであるがプラスとなった。インバウンド効果で、観光・行楽部門が伸び、スポーツ部門もプラスとなった。

【スポーツ部門】フィットネスが過去最高、スキー場が天候などの要因で好転。

【趣味・創作部門】動画配信、電子出版、演劇が伸び、書籍、雑誌はマイナス。

【娯楽部門】テレビゲームが回復、公営ギャンブル堅調。パチンコ、宝くじがマイナス。

【観光・行楽部門】ホテル、鉄道が伸び、海外旅行が好転。遊園地、会員制リゾートも堅調。

2017年のトピックス ～ゲームと音楽種目の動向～〈資料 p. 4、5〉

- 「テレビゲーム（家庭での）」「ソーシャルゲームなどのオンラインゲーム」「将棋」などゲームの参加率が上昇した。「将棋」参加人口の性・年代別構成比をみると60代以上が約4割と比較的多いが、10～50代の各層も一定の割合を占めた。
- 参加率が上昇した音楽種目について性・年代別構成比をみると、「音楽会、コンサートなど」は60、70代で4割近く、50～70代で過半数を占めた。「音楽鑑賞（配信、CD、レコード、テープ、FMなど）」は40代を中心とする中年層の割合が高かった。

〈余暇活動調査の仕様〉 ■調査方法：インターネット調査 ■調査対象：全国15歳～79歳男女
 ■有効回収数：3,214(人) ■調査時期：2018年1月

【お問合せ先】 公益財団法人 日本生産性本部 余暇創研 （担当）志村、田嶋

Tel：03-3511-4011/Fax：03-3511-4019/Mail：yoka@jpc-net.jp

<http://www.jpc-net.jp/leisure/> 検索サイトで「レジャー白書」を検索ください。

レジャー白書は、全国有名書店、ネット書店からお取り寄せが可能です。

レジャー白書

検索

1 2017年の余暇活動

ゲームや音楽関連の参加人口が増加

(白書第1章参照)

2017年は「国内観光旅行（避暑、避寒、温泉など）」（5,240万人）が参加人口の首位となり、2011年以来7年連続の首位となった。上位種目に大きな変動はないが、順位が上昇した種目としては、7位の「音楽鑑賞（配信、CD、レコード、テープ、FMなど）」、10位の「カラオケ」、11位の「温浴施設（健康ランド、クアハウス、スーパー銭湯等）」、12位の「ビデオの鑑賞（レンタルを含む）」、15位の「音楽会、コンサートなど」、20位の「テレビゲーム（家庭での）」があり、これらの種目は参加人口も前年を上回った。音楽関連の種目が順位を上げ、参加人口を増やしているほか、「テレビゲーム（家庭での）」「トランプ、オセロ、カルタ、花札など」といったゲームも参加人口を増やした。近年、全体として参加人口が減少傾向にある中で、上位20種目中7種目で参加人口が増え、そのうち6種目で順位が上昇した年となった。

図表1 余暇活動の参加人口上位20種目（2016年～2017年）

2016年			2017年		
順位	余暇活動種目	万人	順位	余暇活動種目	万人
1	国内観光旅行（避暑、避寒、温泉など）	5,330	1	国内観光旅行（避暑、避寒、温泉など）	5,240
2	外食（日常的なものは除く）	4,090	2	外食（日常的なものは除く）	3,980
3	ドライブ	3,880	3	読書（仕事、勉強などを除く娯楽としての）	3,870
3	読書（仕事、勉強などを除く娯楽としての）	3,880	4	ドライブ	3,810
5	映画（テレビは除く）	3,560	5	映画（テレビは除く）	3,420
6	複合ショッピングセンター、アウトレットモール	3,400	6	複合ショッピングセンター、アウトレットモール	3,310
7	動物園、植物園、水族館、博物館	3,110	7	音楽鑑賞（配信、CD、レコード、テープ、FMなど）	3,190
8	音楽鑑賞（配信、CD、レコード、テープ、FMなど）	3,070	8	動物園、植物園、水族館、博物館	3,090
9	ウォーキング	3,010	9	ウォーキング	2,970
10	ウィンドウショッピング（見て歩きなど娯楽としての）	2,860	10	カラオケ	2,920
11	カラオケ	2,810	11	温浴施設（健康ランド、クアハウス、スーパー銭湯等）	2,750
12	温浴施設（健康ランド、クアハウス、スーパー銭湯等）	2,740	12	ビデオの鑑賞（レンタルを含む）	2,660
13	園芸、庭いじり	2,660	13	ウィンドウショッピング（見て歩きなど娯楽としての）	2,650
14	宝くじ	2,620	14	宝くじ	2,410
15	ビデオの鑑賞（レンタルを含む）	2,610	15	音楽会、コンサートなど	2,350
16	体操（器具を使わないもの）	2,320	16	園芸、庭いじり	2,330
17	SNS、ツイッターなどのデジタルコミュニケーション	2,280	17	SNS、ツイッターなどのデジタルコミュニケーション	2,280
18	音楽会、コンサートなど	2,220	18	体操（器具を使わないもの）	2,230
19	トランプ、オセロ、カルタ、花札など	2,160	19	トランプ、オセロ、カルタ、花札など	2,190
20	ジョギング、マラソン	2,020	20	ジョギング、マラソン	2,000
			20	テレビゲーム（家庭での）	2,000

(注1) 2017年の網かけは前年に比べ順位の上昇、参加人口の増加があったことを示す。

3 ゲーム種目の参加の特徴

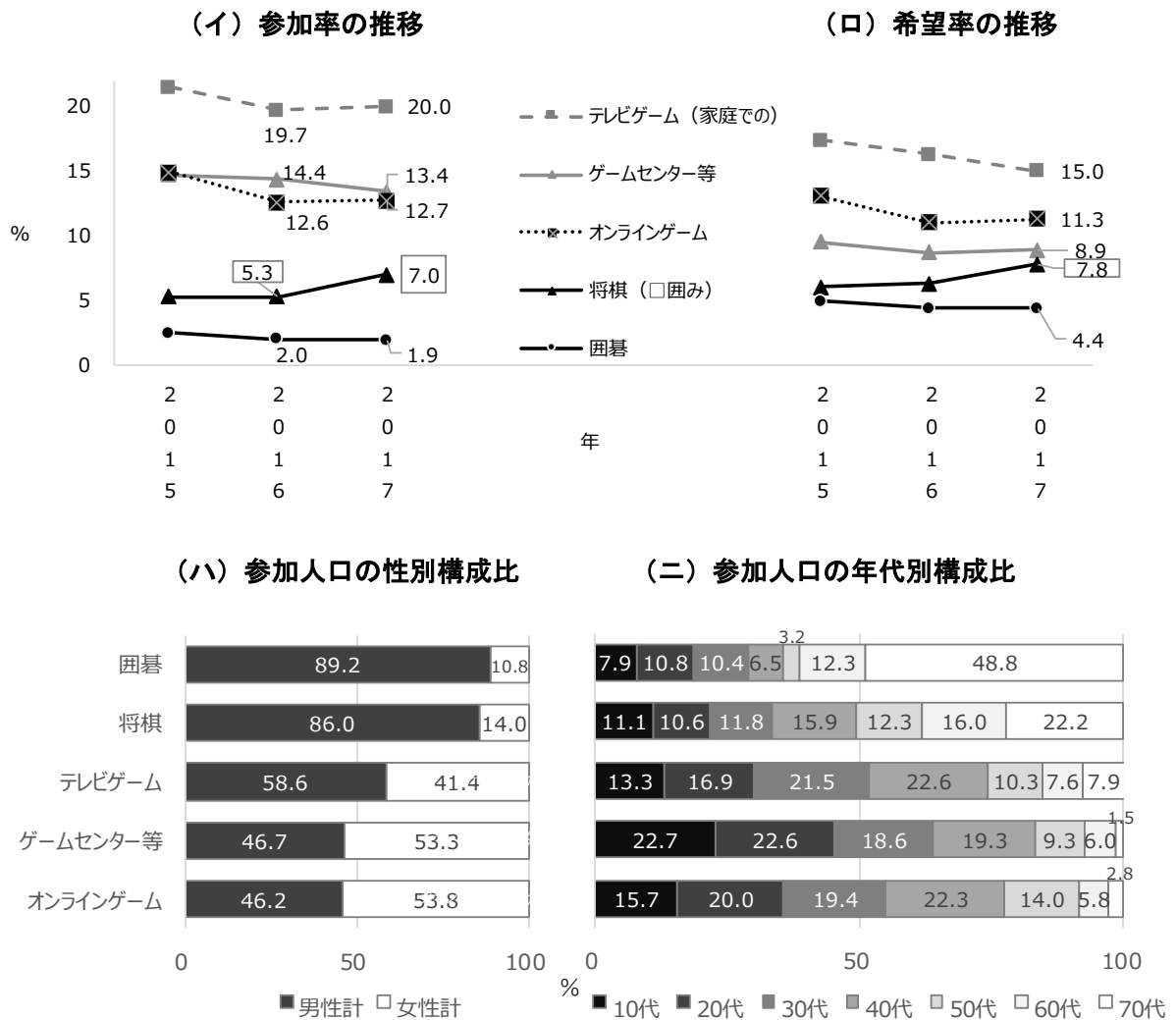
将棋は参加率上昇、中年層含め各年代が参加

(白書第1章参照)

2017年は「テレビゲーム(家庭での)」「ソーシャルゲームなどのオンラインゲーム」「将棋」などのゲームの参加率が上昇した。とくに「将棋」は藤井聡太七段ら新旧スターの人気の高まったこともあり、参加率が前年の5.3%から7.0%へと目立った伸びを示した。将棋は希望率(将来の参加意向)も伸びている。

「将棋」の参加人口の性別構成比をみると、「囲碁」と同様に男性の占める割合が高いが、年代別構成比をみると「囲碁」は70代だけで5割近くを占め、40代、50代の占める割合が1桁台だったのに対し、「将棋」は30代、40代、50代でも一定の割合を占めた。「テレビゲーム(家庭での)」や「ソーシャルゲームなどのオンラインゲーム」でも40代の占める割合が高かった。

図表3 ゲーム種目の参加率・希望率・参加人口の性・年代別構成比



4 音楽種目の参加の特徴

中年層、高年層の参加が目立つ音楽関連

(白書第1章参照)

音楽種目の動きをみると、「音楽鑑賞(配信、CD、レコード、テープ、FMなど)」「カラオケ」「音楽会、コンサートなど」「洋楽器の演奏」の参加率がいずれも前年に比べて上昇した。希望率は「カラオケ」と「洋楽器の演奏」が上昇した。

希望率から参加率を差し引いた潜在需要は「音楽会、コンサートなど」「洋楽器の演奏」でプラスとなっている。

性別構成比をみると、カラオケが男女半々、その他は女性のほうが多いが、最も男性の割合が少ない「音楽会、コンサートなど」でも、参加者の4割近くを男性が占めている。年代別構成比をみると、高年層の割合が最も大きいのが「音楽会、コンサートなど」で、60代と70代で4割近く、50~70代で過半数を占めている。「音楽鑑賞(配信、CD、レコード、テープ、FMなど)」は40代を中心とする中年層の占める割合が高く、30~50代で5割以上を占めている。

図表4 音楽種目の参加率・希望率・参加人口の性・年代別構成比

